

2025年度 受講生募集

転換期の社会に求められる力を培うための
産学連繋型教育プログラム:



Question-Based Innovation and Career education program for societal transition (キュービック)

解
の
ない
時代

「問いを立てる力」と「学び続ける力」を伸ばす

『キャリアと実践』



失敗すること、
考え直すことの
大切さを学べる場所

終わった後の
達成感が半端ない

この授業を
ひとことで
表現すると!

新たに成長した自分と仲
間に会える授業です!
新しいことに挑戦した
い!自分の得意なところ
を見つけたい!一緒に頑
張る仲間に出会いたい!
そんな人にとってびっ
りの授業です。きっと受
講後は実りのある時間
であったと胸を張って言
えると思います!

「本気」全員が本気で取り組んで
いて、本気だからこそ生まれる
ものがありました。迷っている
なら是非受講してみてください。
きっと自分の中で何かが変わ
るはずです。

「問う」という
ことへの入り口

自由と成長

先輩受講生からの
おすすめポイント!

自分で作る
ジェットコースター

烏兔匆匆

この授業を受講するにはそれなりの
覚悟がいると思います。どのような
覚悟だとしても、主体的に学んでい
こうとする姿勢がとても大切です。
少しでも迷っているのならば、一歩
踏み出して受講してみてください!
この授業でしか得られない経験がた
くさんあります。

学部・学年更には大学
を超えてグループワ
ークをしていくので、本
当に様々な意見を得る
ことができます。大学
生になって、まだ主体
的・能動的な事ができ
ていない人にこそオス
スメな授業です!

しんどいけど、
きっと成長できる!

超忙しいけど
ハイリターン

他ではできない体験を通して自分の内
面に変化を起こせます。社会人を疑似
的に体験することで大学で学ぶ意味を
考え直すきっかけにもなりました。

最後までやり遂げて
こそこの授業

QBICプログラム 2025年度スケジュール

※実施日程が変更になる場合があります。プログラムや事前説明会の詳細は、シラバス等で確認してください。

自らの視点で社会の中の問題を再定義（問題発見）する

他者との学びあいを中心に「問い」を社会に対して実践する

01

問いの創出

主な対象：1~2年次

Step-up
プログラム

科目名

キャリアと実践1

事前説明会
会場 時間等は申込時ご案内

9月26日(金)、10月1日(水)

第1回目	10月11日(土)
第2回目	11月15日(土)
第3回目	12月23日(火)
第4回目	2月6日(金)
第5回目	2月7日(土) 午前
	2月7日(土) 午後
	大阪大学と関西大学との交流プログラム実施

無印 = 10時~17時30分 午前 = 9時30分~12時30分 午後 = 14時~17時

02

問いの実践

主な対象：2~3年次

Jump-up
プログラム

科目名

キャリアと実践2

大阪大学と関西大学との協働開講、合同チームを形成します。

事前説明会
会場 時間等は申込時ご案内

4月4日(金)、4月10日(木)

第1回目	4月19日(土) 全日
第2回目	5月17日(土) 全日
第3回目	6月14日(土) 全日
第4回目	7月12日(土) 全日

全日 = 9時30分~17時30分
実施会場は、シラバス等で確認して下さい。



授業アンケートより

Q

授業を受けたことで感じる成長を教えてください！

A

自己分析を通じてプレゼン力が向上し、チームの中で自分の強みを活かせるようになった。

A

多様な視点から問いを深める思考力と、相手に応じて効果的に伝えるコミュニケーション力が身についた。

A

正解のない問題に粘り強く向き合い、本質を見極める思考力が身についた。

Q

授業を終えての満足度は？

A

社会の問題を再定義し、課題を見つけ、仲間と一緒に解決策を考え実践することで、新しい価値を生み出す経験ができ満足している。

A

毎週の発表とフィードバックを通じて、確実に成長している実感が得られたので受講してよかった。

Q

メンターから学んだことを教えてください！

A

失敗を恐れないチャレンジ精神の大切さ。

A

机上の理論だけでなく、実現可能性を考慮した具体的な提案の作り方。

A

社会で活躍するために必要な、学び続ける姿勢と変化への適応力。

Q

授業全体の感想は？

A

実践的な課題に取り組み、社会で必要とされるスキルと心構えを実感を持って学べた。

A

大変な課題にチームで取り組むことで、多様な視点と新しい可能性に気づくことができた。

Q

授業で印象に残っていることは？

A

漠然とした問題から具体的な解決策まで、チームで考えを深めていく過程を経験できた。

A

企業メンターとの対話で、問題の本質を考える大切さと、新しい視点の重要性を学ぶことができた。

A

半年間の努力が実を結び、チーム全員で最高の発表ができた時の喜び。

A

社会人との対話と実践的な課題を通じて、将来のキャリアイメージを具体化できた。

A

正解のない問題にチームで挑戦し、実践的な問題解決の方法を学ぶことができた。

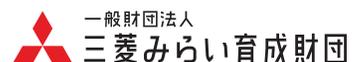
A

将来を考える上で重要な気づきが得られ、実践的な学びの価値を実感できた。

※これまでの「キャリアと実践～問いの創出～」「キャリアと実践2～問いの実践～」の取り組みから

プログラム問い合わせ先

大阪公立大学 国際基幹教育機構 / 市田 (いちだ) h.ichida@omu.ac.jp



本事業は、三菱みらい育成財団 大学・NPO等が行う「21世紀型教養教育プログラム」カテゴリ 4助成事業（2023年度採択）の助成を受けて実施しています。